

## ～大好きなスポーツをやって～

森田 公子

私にとって、千葉中央にチームに入ってから一年半は、とても充実していました。はじめは、毎日ボールにふれることができ、最高に楽しいと思えました。夏休みも、一人で家で過ごしているよりは、練習がきびしくてもバレーをやっている方が幸せでした。途中はつらいこともあったけれど、仲間と仲良くなれてバレーを続けることができました。

一年半の間、監督やコーチから、厳しく良い指導をたくさん受けることができました。特に監督からはたくさんのお話を教わり、技術が上達しました。また技術だけでなく、礼儀や感謝の気持ち、気づかいの心などを教わりました。例えば、気持ちをこめたあいさつ、玄関でのくつの並べ方など細かいことです。遠征で、他のチームにほめられた時はうれしかったです。

それから、監督の話は長いことがあったけれど、その話の中には「おお！これは覚えておきたいな。」と思う言葉が時々ありました。

関東大会とスポ少全国大会の間の時期に、監督の『22年8月 全国出場をふり返って』の日記を初めて見せてもらいました。その中で、『当たり前のことを当たり前でやれば、当たり前が当たり前でできる』という言葉と『人間力』という言葉が印象的でした。『人間力』というのは、自分の性格からつくられているもの。いつものプレーが出来ないときは、いつものプレーが出来ない人間力に日頃からなっている。

「なるほどなあ～」と思いました。

コーチの方々の指導にも感謝しています。試合中には、私たちの気持ちを落ちつかせてくれました。また、チームに必要なものや用具をプレゼントしてくれたり、飛行機の手続きをしてくれました。

山田さんには、監督とはちがった練習方法で一週間に三日、たまに土曜日と日曜日に指導をしてくれました。一、二でとる姿勢や目線などをくり返しやり、とてもためになりました。

OGのことみちゃんとの練習も楽しかったです。

監督、コーチ、忙しい中私達のためにありがとうございました。

私は卒部後は、ちがうスポーツに挑戦しようと思っていたけれど、関東大会の頃からバレーが楽しくなってきて、中学でもやりたいと思うようになりました。バレーのおかげで中学に行くことが、とても楽しみになったのだと思います。

下級生のみなさん、これから、ビシッとした気持ちでやっていってください。

私は中学で、まじめに練習し、千葉中央の卒部生として恥ずかしくないように頑張ります。

今までありがとうございました。